

公益財団法人 山口育英奨学会

事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその実績

(単位:千円)

事業別	予算額	決算額	実施割合
育英奨学事業 (注)	128,894	118,965	92.30%
学術研究等助成事業	22,403	23,827	106.36%
資料館庭園運営管理事業	27,062	24,481	90.46%

(注) 育英奨学事業には貸与奨学金支出(予算:55,350千円 決算:54,600千円)を含んでいる。

(2) 直前3事業年度の財産および状況

(単位:千円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (当該事業年度)
経常収益	155,485	148,812	156,452
評価損益等調整前 当期経常増減額	△9,475	12,929	20,087
当期経常増減額	251,563	266,055	△456,712
正味財産期末残高	4,558,121	4,887,253	4,339,962

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
①育英奨学事業	学生に対し奨学金の無利子貸与 奨学生集会を開催し学生の指導育成と相互交流
②学術研究等助成事業	大学等における学術の研究者に対して助成金を給付 自然環境保護活動を実施する団体に対しての助成金給付 当会の事業目的に合致する公益事業活動をする団体への助成
③資料館庭園運営管理事業	郷土資料館の運営および一般公開 庭園・山林・遊歩道の整備と自然環境保全活動

(4) 従たる事務所の状況

名 称	所在地	事業内容
東京事務所	東京都 品川区大崎	首都圏の大学等への当会事業の周知 公益事業活動の助成対象団体の情報収集 金融情報収集

(5) 重要な契約に関する事項

契約年月日 (契約期間)	相手方	契約金額	契約の概要
平成 26 年 4 月 1 日 (5 年間)	EY 税理士法人	1 年間 1,200,000 円	定期提出書類の作成支援および 会計等に関する相談業務

(6) 職員に関する事項

職名等	氏 名	就職年月日	担当事務
事務局長	山崎 壽浩	昭和 57. 4. 16	事務局総轄
管理部長	原 久晴	昭和 61. 4. 7	本部事務・会計・資料館管理
事業部長	荒井 能弘	平成 22. 9. 1	奨学金・研究助成金・庭園管理
一般事務	渡部 夕子	平成 2. 4. 1	東京事務所の事務・資料館管理
一般事務	山口 広美	平成 13. 2. 20	建物内管理・事務所庶務

(7) 役員会等に関する事項

① 理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 30. 5. 30	平成 29 年度事業報告・計算書類等承認について	可決
〃	第 7 回定時評議員会招集および提出議案について	可決
〃	平成 30 年度新規採用奨学生選考について	可決
〃	平成 30 年度学術研究助成について	可決
〃	平成 30 年度自然環境保護活動助成について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承
平成 31. 3. 28	平成 30 年度追加支援助成について	可決
〃	平成 31 年度事業計画の承認について	可決
〃	平成 31 年度予算の承認について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承

② 評議員会

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 30. 6. 21	平成 29 年度事業報告の内容報告について	了承
〃	平成 29 年度計算書類等の承認について	可決

(8) 株式の保有状況

企業名	保有株式数	保有割合	入手経過	企業との関係
JXTG ホールディングス(株)	3,656,190 株	0.10%	寄付受入	取引なし
北越メタル(株)	55,600 株	1.39%	寄付受入	取引なし

## 2 役員等に関する事項

### (1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
理事長	山口敬太郎	2年	常勤	規程による	
常務理事	山崎 壽浩	2年	〃	〃	事務局長
理事	森地 茂	2年	非常勤	〃	
〃	若杉 敬明	2年	〃	〃	
〃	一色 誠一	2年	〃	〃	
〃	田波 耕治	2年	〃	〃	

### (2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
監事	高橋 實	2年	非常勤	規程による	
〃	西尾 進路	2年	〃	〃	

### (3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
評議員	江中八洲彦	4年	非常勤	規程による	
〃	古瀬 裕	4年	〃	〃	
〃	福壽 道夫	4年	〃	〃	
〃	佐藤 浩治	4年	〃	〃	
〃	林 久	4年	〃	〃	
〃	岩野 宏	4年	〃	〃	
〃	大田 勝幸	4年	〃	〃	
〃	北原 傳	4年	〃	〃	

### (4) 役員等の報酬

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	6名	20,867千円	
監事	2	155	
評議員	8	133	
選考委員	11	133	
合計	27	21,288	

## 事業報告の附属明細書

### I 事業に関する記載事項

#### 1 育英奨学事業について

##### (1) 奨学金貸与者数および貸与額

区 分	継 続 奨学生	新採用 奨学生	貸与者 合計	奨学金貸与額	奨学金返還免除額
大学院生	4名	4名	8名	4,500千円	1,000千円
大学生	62	29	91	53,900	9,450
短大生	1	1	2	1,200	300
高専生	0	0	0	0	0
留学生	10	5	15	6,600	850
合 計	77	39	116	66,200	11,600

##### (2) 奨学金返還者数および返還額

区 分	貸与奨学金返還者	返還額
大学院生	35名	5,762千円
大学生	168	47,948
短大生	1	52
高専生	4	531
高校生	6	384
留学生	43	9,379
合 計	257	64,056

##### (3) 奨学生集会

奨学生の研修指導育成の目的で8月29日～30日（1泊2日）に開催した。

来賓による講演会と講話、自然環境保全活動の理解を目的とした山林保全作業、当地の木材を使った箸作りのワークショップを実施した。

宿舎では奨学生による懇談会を行った。

カリキュラムは次のとおりである。

参加学生 61名

## 実施内容

1 日目	全国各地より本部に集合
	<b>【奨学事業についての理解】</b>
	開会 理事長挨拶、役員紹介、学生自己紹介
	講演会 演題「国際情勢判断と日本 - グローバルに活躍するために」 藪中 三十二 氏 (立命館大学客員教授)
	講話 「企業の人事担当者から見た就職活動について」 相沢 拓哉 氏 (JXTG エネルギー株式会社 人事部人事グループマネージャー)
	郷土資料館、庭園の見学、役員と学生との懇談
	奨学生の懇談会
2 日目	<b>【環境保護活動への理解】</b>
	山林保全作業 (植林地の除草刈り、間伐作業、杉の皮むき体験)
	ワークショップ「My 箸づくり」
	閉会 JR 長岡駅へ移動、解散

奨学生集会参加者には貸与奨学金年額のうち、2ヵ月分の返還を免除した。

### (4) その他

機関誌「山びこ」51号を刊行し、奨学生および元奨学生に配布した。

## 2 学術研究等助成事業について

### (1) 研究助成

指定校から推薦された次の研究に対して、各 800,000 円を上限とし、総額 13,500,000 円の助成金を交付した。

- ① 東京大学 大学院農学生命科学研究科 助教 伯野 史彦  
研究題目 インスリン受容体 RNA 選択的スプライシングの分子機構の解明：  
インスリン受容体の代謝調節・増殖誘導機構のスイッチング
- ② 東京大学 生産技術研究所 助教 金 秀炫  
研究題目 マイクロfluidics と半導体技術の組み合わせによる単一粒子操作技術  
の開発と単一エクソソーム解析への応用

- ③ 東京大学 大学院情報学環 特任助教 仲谷 佳恵  
研究題目 既習事項活用スピーキング力の向上を目的とした英語スピーキング学習支援システムの改良と評価
- ④ 群馬大学 大学院医学系研究科神経薬理学 助教 花村 健次  
研究題目 加齢依存的な認知機能低下の制御機構の解明
- ⑤ 新潟大学 工学部 助教 寺口 昌宏  
研究題目 円偏光を不斉源とするキラリティ発現とそれらを利用したポリアセチレンのらせん選択重合による不斉転写・増幅
- ⑥ 新潟大学 工学部 材料科学プログラム 助教 石川 亮佑  
研究題目 ペロブスカイト太陽電池のナノカーボン材料による高性能化
- ⑦ 富山大学 大学院理工学研究部（理学） 准教授 大津 英揮  
研究題目 光エネルギーにより再生する有機ヒドリド供給能の自在制御と二酸化炭素還元反応への展開
- ⑧ 長岡工業高等専門学校 准教授 床井 良徳  
研究題目 ナノ粒子手法に革新をもたらす水中マイクロバブル下での高密度プラズマの生成と制御
- ⑨ 長岡工業高等専門学校 電気制御工学科 助教 酒井 一樹  
研究題目 一般相対論の検証に向けた、深層学習を利用した重力波における準固有振動開始時刻の高精度推定法の開発
- ⑩ 新潟大学 医歯学総合研究科 特任助教 太田 岳  
研究題目 内耳蝸牛に生じるナノ振動を追跡するレーザー干渉計の創出
- ⑪ 東北大学 大学院 講師 重野 真徳  
研究題目 有機塩基触媒が拓く炭素－水素結合の高効率分子変換
- ⑫ 東北大学 電気通信研究所 准教授 大塚 朋廣  
研究題目 高速マイクロプローブを用いた固体ナノ構造電子状態計測技術の研究

- ⑬ 長岡技術科学大学 助教 大前 洸斗  
研究題目 低消費電力デバイスの実現の鍵になる室温強磁性半導体を用いた高スピン注入電極の形成に関する研究
- ⑭ 長岡技術科学大学 准教授 西村 泰介  
研究題目 葉の形態可塑性に関するDNAメチル化の同定
- ⑮ 山形大学 学術研究院 准教授 星野 友紀  
研究題目 ダダチャマメの「おいしさ」を決める遺伝子の特定
- ⑯ 東京工業大学 助教 水瀬 賢太  
研究題目 分子動画撮影技術に基づく新規分光法を用いた未同定重要化学種—窒素2量体—の観測と構造決定
- ⑰ 秋田大学 大学院理工学研究科 講師 肖 英紀  
研究題目 メカニカルアロイング法による新規スキルミオン物質探索

(2) 自然環境保護活動助成

自然環境保護活動に取り組む次の団体に対して、各 500,000 円を上限とし、総額 4,595,116 円の助成金を交付した。

- ① 特定非営利活動法人 新潟の科学・自然探偵団 担当者 坪川 紀夫  
活動名 わたしの学校にもサイエンス・サーカスがやってきた（中山間地の小規模校や離島の子ども達と高齢者を対象とした出前型環境教育・科学技術理解促進活動）
- ② 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 担当者 久本 洋子  
活動名 荒川河川敷におけるハチク一斉開花・枯死が地域生態系に及ぼす影響のモニタリング
- ③ 特定非営利活動法人 新潟水辺の会 担当者 相楽 治  
活動名 里山竹林再生と里潟再生が循環する五方良し竹筏事業
- ④ 特定非営利活動法人 湯沢みどりの会 担当者 南雲 實  
活動名 百年先の夢事業「きれいな地球を未来の子どもに」



- ⑤ 長岡野鳥の会 担当者 古川 英夫  
活動名 長岡野鳥の会「カラスを知るための講演会」の開催
- ⑥ 公益社団法人 日本植物園協会 担当者 倉重 祐二  
活動名 我が国の貴重な植物を保全するナショナルコレクション制度の推進
- ⑦ ECO village SHELTER project 担当者 鈴木 梢  
活動名 こどもたちのための森づくり～里山保育活動と循環を考えるマーケットの開催
- ⑧ 新潟大学いきものサークルふかみどり 担当者 大野 隼  
活動名 絶滅危惧種タガメの分布を規定する景観環境要因の解明  
－新潟県のタガメは絶滅してしまったのか？
- ⑨ 新潟渡り鳥の会 担当者 佐藤 一海  
活動名 コハクチョウの風車に対するセンシビティマップ作成に向けた長距離移動時の  
環境選択性の解明
- ⑩ 新潟大学野生動物研究会 担当者 佐藤 雄大  
活動名 新潟県に生息する希少モグラ類の保全を目指した非侵襲的な生体組織サンプル  
採取方法の確立

(3) その他助成、支援事業

学術研究等助成事業の「その他助成・支援事業」として次の団体に 4,311,680 円を交付した。

① 公益社団法人 日本女子プロ将棋協会	1,000,000 円
② 公益財団法人 長岡米百俵財団	1,000,000 円
③ 学習院大学文学部教授 荒川 正明	1,000,000 円
④ 公益財団法人 日本ユースリーダー協会	600,000 円
⑤ 山古志錦鯉養殖組合	500,000 円
⑥ 長岡市立 小国小学校	211,680 円

(4) 自然環境保護活動報告会の開催

10月に「自然環境保護活動報告会」を開催し、平成29年度に助成金を交付した12団体のうち10団体が参加して、活動の成果について報告を行った。

### 3 資料館庭園運営管理事業について

- (1) 当会の資料館および庭園を4月下旬から11月下旬まで一般に公開して見学者を受け入れている。ガイド2名を交替で配置し案内や解説を行って見学者の便に供している。見学者は年間1,943名であった。
- (2) 当会所有の庭園および山林の遊歩道を散策しながら、植物や野鳥、きのこを観察する会を年4回開催した。地元の専門家にガイドを依頼して案内や解説を行った。合計84名の参加者があった。
- (3) 庭園の池の水不足解消をはかるため井戸の地下水を溜める貯水池を造成する工事を行った。地下水の水質は鉄分を含むため自然用水を混合して使用する。
- (4) 奨学生集会や観察会および諸会議等で利用する新しい会館(名称:山びこ館)の建設工事を行い3月末に完成した。